

【 2025年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

園名 聖隷こども園こうのとり富丘

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2025年 11月 14 日

評価者 園名 聖隷こども園めぐみ

役職 園長 氏名 富永裕美

評価者 園名 市野与進こども園

役職 園長 氏名 鈴木勝子

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

3事業が併設されている強みを活かし、保育理念に基づき子どもの豊かな育ちを保障する保育が随所で展開されている。

保育以外に看護、危機管理それぞれの場面で3事業間での連携がなされており、家庭での子育ての伴走をしつつ、保護者を支える役割も担っている。保護者との連携を密にすることで利用者の安心に繋がっている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

子ども一人ひとりの背景を踏まえ、子どもの思いや姿を大切にじっくりと関わる職員の姿勢が多く見受けられ、個別の関わりを大切に丁寧な保育が園全体で展開されている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

入園時に保護者説明を行い、書面にて同意を得ている。また、外部機関との交流で写真等使用する場合は都度、保護者の確認をとっている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

園全体で周知すべき内容については会議等で周知している。緊急性の高い場合は職員伝達ノート（コミュニケーションノート）で速やかに周知徹底をしている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

感染症発生状況はコドモンにて速やかに保護者に伝達している。また、担任と看護師が連携し日々の健康観察を丁寧に行い、感染症の拡大予防に努めている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

3事業合同での危機管理委員会を毎月行い、情報の共有化を図っている。年に1回警察の協力を得て不審者訓練を実施している。また、今年度は親子で起震車体験を行ったり磐田市危機管理課から職員対象に地震に備えた勉強会を実施している。全職員が防災意識が高められるよう園としての体制を整えている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

施設、設備関係は定期的な点検を行うと共に、必要に応じて速やかに修繕や買い替えが行われている。また、運営面においては児童発達支援事業所と事務所を共有しているため情報共有や子ども同士がスムーズに交流できるよう連携している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

玄関や階段等共有部分に季節の花や植物が飾られており、視覚からも季節の変化を感じることができる。

職員が環境美化を意識できるようぴかぴかタイムを設け、園全体で整理整頓の意識づけを行っている。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

1歳児クラスでは、子どもの興味や発達に応じた玩具や手作り玩具が配置されている。保育室だけでなくホールやテラス、一時保育室等空きスペースを有効活用している。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

コメント

園内の畑で栽培活動をしたり、玄関に季節の花やシイタケ栽培のキットが置かれていたり、各保育室ではカブトムシの幼虫の飼育を行っており、身近に植物や生き物と触れ合う環境にある。季節の変化を感じ豊かな自然環境に囲まれ、命の尊さや動植物を愛おしむ教育保育がなされている。

【全体を通して】

コメント

開園から5年経ち、3事業の事業内容を互いが共有できる機会を多く持ち、併設の利点を活かしてそれぞれの事業が展開されている。

発達に課題を持つ子どもの保護者への対応が現在の大きな課題である。それによって職員が疲弊することがないように、園長主任を中心に保護者、子ども、職員に園全体で丁寧に関わっている。

保育の経験年数が少ない職員も多いが、園長主任が職員の声丁寧を受け止め、寄り添うことでそれぞれが意見を出し合い、保育の質の向上に取り組んでいる。